

# 日本地衣学会 ニュースレター

# No.112

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次

会員通信	413
干支の地衣, タツゴケ ( <i>Sclerophyton</i> ) / 坂田 歩美・原田 浩	413
地衣類の新しい和名, パラゴケ ( <i>Trapelia</i> ) / 原田 浩・坂田 歩美	415
会務報告	415
次期会長選挙結果 / 木下 薫	415
次期評議員選挙結果 / 安斉唯夫	416

## 会員通信 Photo Gallery

### 干支の地衣, タツゴケ (*Sclerophyton*)

*Dragon Lichen, newly named for Sclerophyton, celebrating a New Year of 2012, year of the dragon*  
/ SAKATA Ayumi & HARADA Hiroshi

>>> 坂田 歩美<sup>1)</sup>・原田 浩<sup>2)</sup>: 1)千葉県立中央博物館 共同研究員, 2)千葉県立中央博物館



図1. タツゴケ *Sclerophyton*. バーは 1mm.



図2. クチナワゴケ  
*Enterographa*  
*anguinella*.  
バーは 1mm.

さて間もなく新年となるが、新年と言えば、干支に因んだ生きものが話題となるのが恒例である。しかし残念ながら、そのような名前の地衣類はごくごく限られており、毎年のことながら、地衣類ファンとしては寂しい思いをしていた。来年は辰年、竜の年。今まで竜に因んだ和名はなかったが、「タツゴケ」の名にふさわしい地衣類を見つけたので、これを機会に新和名を提案したい。

タツゴケ（属）と名付ける地衣類は、リトマスゴケ科（Roccellaceae）に属す *Sclerophyton*（スクレロフィトン）という痾状地衣類である。図 1 のように裸子器が長く伸びリレラ状となり、枝分かれた様子を竜に見立てた。同科には、やはり子器がリレラとなる

クチナワゴケ属（*Enterographa*）があるのも、本属にタツゴケと名付けるきっかけとなった。クチナワとは朽縄、つまり蛇のこと。*Sclerophyton* 属の子器は、クチナワゴケ（図2）の子器よりも大きく立派なので、タツゴケというわけだ。

タツゴケ属は主に熱帯に分布し、Sparrius (2004) によると世界中で 14 種が知られている。これまで日本からは報告は無かったが、クチナワゴケ属の研究のため千葉県立中央博物館に所蔵されている標本をソーティングした際に、本属の標本を見つけた。この詳細については、ただいま検討中の日本産クチナワゴケ属の論文がまとまり次第、分類学的検討を行い論文として発表する予定である。

## 地衣類の新しい和名, バラゴケ (*Trapelia*)

*Bara-goke* (Rose lichen), newly named for *Trapelia*/ by HARADA Hiroshi & SAKATA Ayumi

>>> 原田 浩<sup>1)</sup>・坂田 歩美<sup>2)</sup>: 1) 千葉県立中央博物館, 2) 同 共同研究員

千葉県の鋸山で開催した第 36 回青空地衣教室のとき, *Trapelia* を見つけ, 「バラゴケ」の新和名をその場で提案した。まだ印刷物上では披露していなかったので, ここで紹介したい。

本属は日本からは 3 種の報告があり, このうち *T. coarctata* と *T. involuta* はよく子器を付けるが, 赤か褐色のレカノラ型子器であるため, チャシブゴケ属に似ている。しかし子器発生様式が異なり, 本属では子器原器が球形に発達した後に, 頂部が放射状に割れて子器盤を裸出するタイプ(hemiangiocarpic)であり, 若い子器では子器縁部が断片化しているので容易に区別できる。暖温帯から冷温帯まで(あるいはもっと)広く分布すると思われる。暖温帯の渓谷周辺(水辺で

はない)を調査していると, 半日陰の半ば湿った岩上に, 赤い子器盤が白く縁取られた様は, バラの花のように鮮やかであることから, バラゴケ(属)と名づけた。*T. involuta* は地衣体がしばしば顆粒状となることからツブバラゴケに, *T. placodioides* は粉芽を付けることからコフキバラゴケとしたい。

### *Trapelia* M.Choisy バラゴケ属

*T. coarctata* (Sm.) M.Choisy バラゴケ

*T. involuta* (Taylor) Hertel ツブバラゴケ

*T. placodioides* Coppins & P.James コフキバラゴケ

## お知らせ *News and Announcements*

### 次期会長選挙結果

*JSL President Election Results/* by KINOSHITA Kaoru

>>>> 木下 薫: 庶務幹事

安斉唯夫, 日本地衣学会選挙管理委員会委員長より以下の報告を受けましたので, 高橋邦夫会長の任期満了(2011年12月末日)に伴う, 次期会長選挙の結果をご報告いたします。

選挙は, 日本地衣学会会則第 11 条, 役員等の選出についての細則第 2 条, 会長選出についての内規(以下, 内規と略す)に基づき実施いたしました。

会長候補者は, 立候補者が得られなかったため, 評議員会推薦による高橋邦夫氏の 1 名となりました。

信任投票となった会長選挙投票用紙は 10 月 13 日に郵送し, 11 月 4 日に締め切られました。

開票の結果, 以下のように高橋邦夫氏が信任され, 再選を果たされました。

\* \* \*

開票日: 2011 年 11 月 5 日

投票総数 78 票

信任 78 票

不信任 0 票

無効票 0 票

開票: 選挙管理委員会 安斉唯夫

立会人: 岡田嘉仁, 小杉真貴子

\* \* \*

次期会長となられた高橋邦夫氏は, 内規(6)に基づき, 次期幹事に河原秀久氏(庶務幹事)と木下靖浩氏(会計幹事), 次期編集委員長に原田浩氏を指名されました。その他の委員会及び委員長等については決定し次第, ご報告いたします。

The JSL President 2012 - 2013:

Kunio TAKAHASHI (Kiyose, Tokyo)

Secretariat 2012-2013:

Hidehisa KAWAHARA (Suita, Osaka)

Financial Secretary 2012-2013:

Yasuhiro KINOSHITA (Yokohama)

Editor-in-chief 2012-2013:

Hiroshi HARADA (Chiba)

## 次期評議員選挙結果 Election Results of the JSL Councilors/by ANZAI Tadao

>>> 安齊 唯夫：選挙管理委員会委員長

会員投票による評議員選挙結果の報告

### 1) 会員投票による次期評議員名簿

日本地衣学会会則第 11 条、「役員等の選出についての細則」ならびに「評議員選出についての内規」にもとづき、評議員選挙(2011 年 12 月 16 締切)が行われました。開票は 12 月 17 日明治薬科大学において新井靖子氏(明治薬科大学大学院生)の立ち会いの下、坂田歩美氏と安齊唯夫氏によって得票数の集計と確認が厳正に行われました。

投票による評議員の選出は通常会員の中から得票数の多い順に 5 名が選出されます。選出された方々に選挙管理委員長から就任の可否を問い合わせたところ、山本好和氏と安齊唯夫氏が辞退されました。

この結果、会員投票による 2012 年度からの次期評議員として下記の 5 名が認定されました。

次期評議員名簿は以下のとおりです(カッコ内は得票数、敬称略)。

原 光二郎 (17)

高橋 (嶋村) 奏恵 (16)

小峰 正史 (12)

木下 薫 (12)

川又 明德 (11)

(安齊 唯夫：選挙管理委員会委員長)

\* \* \*

### 2) 会員投票による評議員選挙結果

2011 年 12 月 17 日に開票の行われた会員投票に

よる次期評議員選挙の結果は、下記の通りです。

- ・投票枚数(投票人数)41
- ・投票総数 205 票(1 枚 5 名連記)
- ・有効投票 196 票
- ・白票 5 票
- ・無効票 4 票

得票を得られた通常会員は下記の通りです(敬称略、得票数順、カッコ内は得票数)。

山本 好和(18)、原 光二郎(17)、安齊 唯夫(17)、高橋 (嶋村) 奏恵 (16)、小峰 正史 (12)、木下 薫 (12)、川又 明德 (11)、坂東 誠 (8)、南 佳典 (7)、岡本 達哉 (6)、川上 紳一 (6)、松本 達雄 (5)、出川 洋介 (5)、

高萩 敏和・宮川 悟・出口 博樹・濱田 信夫(以上 4)、今井 正巳・遠藤 剛・小山西 行雄・中嶋 裕之・中村 薫・棚橋 孝雄・多田 俊治・綿貫 攻・關谷 次郎・小杉 真貴子・宮脇 博巳(以上 2)、坪田 博美・浜田 博喜・小宮 威彌・福田 廣一・山口 富美夫・松本 淳・佐藤 和彦・鈴木 三男・小川 誠・原田 幸雄・周藤 靖雄・小幡 育・坪田 美保・加藤 裕一・佐藤 大樹・小林 孝人・南 常俊・坂田 歩美(以上 1)。

なお、「役員等の選出についての細則」ならびに「評議員選出についての内規」により追加の評議員を選出できること、および評議員会における議長、監事等の互選が行われることになっています。これらの結果につきましては、後日ご報告させていただきます。

(安齊 唯夫・坂田 歩美：選挙管理委員会)

## ●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌 102号 378ページに。

### ●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 102, p. 378 of this publication.

●Newsletter from the Japanese Society for Lichenology, no. 112, pp. 413-416: eds. Harada H. & Kinoshita K., published by the Japanese Society for Lichenology, 24 Dec. 2011.

日本地衣学会ニュースレター 112号

発行日：2011年 12月 24日

編集：原田 浩・木下 薫

発行者・発行所：日本地衣学会

〒203-0021 東京都清瀬市野場 2-522-1

明治薬科大学 生薬学教室内

©2011 日本地衣学会 (© 2011 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。